

SGA が極低出生体重児の 6 歳時発育発達への影響に関する臨床データの研究

利用についてのお願い

研究の概要・背景

本邦での極低出生体重児の生存退院率は高い水準に達しています。しかし、早産児においては神経発達予後には課題が残されています。特に **Small for Gestational Age**（以下 **SGA**）で出生した児は、低身長や神経発達遅延、発達障害のリスクが高いことが知られています。一方で、**SGA** 児の中には発達の遅れがみられないという報告もみられます。本研究では **SGA** が極低出生体重児の 6 歳時の発育および発達に与える影響を明らかにすることを目的としています。

試料・情報の利用目的・方法（他機関への提供を含む）

診療録を基に以下の情報を匿名化して収集し解析します。基本データ(在胎週数、出生時の体重、身長、頭囲、分娩方法など)、新生児合併症の有無を収集します。さらに、退院時のデータとして退院日、退院日齢、体重、身長、頭囲などを収集します。また、退院後のデータとし 3 歳および 6 歳時点での体格データ（体重、身長、頭囲）を収集し、それぞれの時期における発育状況を詳細に検討します。6 歳時には「Wechsler Intelligence Scale for Children – Fourth Edition (WISC-IV)」を用い発達の評価を行います。これらにより **SGA** が極低出生体重児の発達に及ぼす影響を総合的に解析します。

対象者・期間

本研究の対象は、2010 年 4 月から 2016 年 12 月の期間に長岡赤十字病院 NICU に入院した極低出生体重児のうち、6 歳まで外来受診を行なうなどの条件を満たす症例です。

データ利用のお願いと申し出について

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

新潟大学医歯学総合病院

担当医師：専任助教 林 雅子

〒951-8510 新潟県新潟市中央区旭町通 1 番町 757

電話：025-227-2222、FAX：025-227-0778